

## 第3回多文化審議会における意見及び県の考え方

	方向性	審議会における意見等		県の考え方
意識の壁	1 地域社会への更なる理念啓発 2 地域と外国人県民との連携強化	No.1	東北は全般的にパスポート保有率が低い状況にある。グローバルな人材を増やすためにはアウトバウンドも考える必要があり、策定の考え方や目標値などに反映させてはどうか。	インバウンドとアウトバウンドを連動して考える視点は重要である。パスポート保有率などを本計画の指標とするのは難しいが、今後、教育委員会等と連携し、高校における海外への教育旅行についての働きかけ等を検討することとしたい。
		No.2	市町村の取組や評価指標の達成状況をホームページ等に掲載するなど可視化させることで、更なる意識啓発につなげてほしい。	市町村ヒアリング等を通じて収集した情報について、適切な発信と共有の手法を今後検討することとしたい。
		No.3	すでに全国版は存在しているが、宮城県においても多文化ツール等に関する情報共有ができるネット上の場などがあれば、業務の効率化やサービス向上につながるのではないかと。	課ホームページの中で多文化に特化したページを作成し、必要な情報共有や情報の発信を行うこととする。
		No.4	シンポジウムの内容について、外国人県民の話だけではなく、受入側の地域住民の成功事例なども聞けると良い。	次年度以降のシンポジウムを企画する際に検討することとしたい。
言葉の壁	3 活用可能な情報収集の支援及び多言語に対応した情報の提供 4 多様な学習支援による地域社会への適応力向上	No.5	I C Tツールの情報提供を行う際は、その使い方の情報も合わせて提供すべき。市町村においても、活用方法などを習得するための講座等を開催してはどうか。	御指摘のとおり、I C Tツールは使えるようになることが重要であると考えており、利用法の周知についても、現状やニーズ等を把握しながら対応を検討することとしたい。
		生活の壁	No.6	新たに入ってくる外国人県民だけでなく、国際結婚などですでに宮城県に在住している外国人県民が直面する、老後の不安などの問題についても取り上げる必要があるのではないかと。
No.7	主な取組の中にL G B Tへの対応といったことを明記することで、逆に外国人への誤解を生むことが懸念される。		誤解を生じさせる意図はなく、L G B Tのほか、ハラールやグルテンフリーへの対応など、外国人を受け入れる環境整備を行うことで、インバウンドなどへの対応にもつながると考えている。	
No.8	外国人コミュニティーの形成を支援する取組も必要ではないかと。		第3期計画では、技能実習生等と地域との共生に向けた取組を行うこととしており、それらの取組を通し、外国人同士が交流する場も提供していきたい。	
No.9	シンポジウムなどに参加できない外国人県民を支援するために、外国人同士の交流の場を企画してはどうか。			
No.10	外国籍児童に対し、母国への理解と尊重の啓発についてどのような取組を実施しているか。		母国教育についての重要性は認識しており、現在は県国際化協会で行っている取組を通して、第3期計画においても対応していきたい。	

	方向性	審議会における意見等	県の考え方
評価指標	No.11	第2期計画における評価指標1・2の達成状況によると、啓発事業を実施している市町村は少ないにもかかわらず、説明会等に参加する人数は多いことに矛盾を感じる。参加者が新規なのかリピーターなのかといった分析も必要ではないか。	市町村ヒアリングを通して、地域の実情を踏まえた実効性のあるアウトカムにつながるような啓発方法や評価指標について今後検討することとしたい。
	No.12	評価指標1と評価指標3の対象は重複する部分があると考えがどうか。	評価指標1は「多文化共生啓発事業を実施している市町村数」であり、非常に定義が広がっている。一方で評価指標3は「言語」に特化した指標であるため、重複する部分はあると考えている。
	No.13	評価指標2と評価指標7の違いは何か。	資料3-2のとおり整理することとする。
	No.14	SDGsの項目について、「貧困の撲滅」や「発展途上国への支援」などについても記載すべきではないか。	評価指標の設定等を行いに当たり、SDGsの考え方も踏まえたということで資料に記載したものであり、計画本文の中でSDGsについて記載するものではない。